

りません。たとえば、妊娠や出産は、その適齢期がある程度決まっていますし、子育てでは、子供のみならず保育園事情や夫との協働関係などの影響も受けます（もちろん、男性でもこれらの影響は受けますが、現在の日本においては、まだまだ女性が受ける影響のほうが多いように思います）。

自分でコントロールしにくいものを抱えながら仕事をしていくわけで、「もし両立できなかつたら……」と考え、不安が膨らむのはとてもよくわかります。

それでも、ここで私がお伝えしたいのは、「少しでも興味があるのであれば、やってみたら」ということ。なぜなら、本当にムリかどうかはやってみないとわからないし、実際には、なんとかなることがほとんどだからです。ただ、そうは言っても、自分のリーダーシップ能力について不安を感じている女性は少なくないでしょう。

そういう人のために、リーダーシップ能力を身に付け、リーダーシップを発揮するための方法をアドバイスしていきましょう。

「あるべき姿」に縛られるのはやめよう

「リーダーってというのは、みんなを引っ張っていかなくちゃいけないと思います。でも、私ってそういうタイプじゃないし……」。

こんな声をよく聞きます。私自身も管理職になったとき、そう思って不安になりました。

でも、違うのです。なぜなら、リーダーにはいろいろなスタイルがあるからです。「こうじゃなくちゃいけない」という唯一無二のスタイルがあるわけではないのです。

私が初めて管理職になったとき、ま

ず、「管理職としてどうなればいいのか」をはっきりさせようと、リーダーシップ本を読みまくりました。また、会社でお金を出してもらって、リーダー研修を受けました。自費でリーダーシップ講座にも行きました。さらに、「この人、マネージャーとしていいな」と思う人たちに話を聞きに行きました。

そうして、自分で描いた「あるべきマネージャーの姿」を再現してみようとしたわけです。でも、うまくいかなかった……。

むしろ、「私には、そんな風にはできない」とか、「私は人を引っ張っていきようなタイプじゃないのに」とか、「なんで○○さんはできるのに、私はうまくできないんだろう」とか、ネガティブなことばかり考えて、落ち込む日々でした。

振り返ってみると、当時の私は、「自分で思い描いたあるべきリーダー